



平成 20 年 11 月 14 日

産科医療崩壊を食い止める

：産科医と協働できる助産師の「育成プログラム」受講者募集開始

岡山大学大学院保健学研究科では、崩壊の叫ばれている産科医療現場・子育て現場を救援すべく、助産師・看護師を対象とした「『妊娠中からの母子支援』の即戦力育成プログラム09」を開催します。

医療現場の現役スタッフによる講義と実技指導、1年間に15回のテーマを設定した集中講義と、休日や夜間を利用した演習により、自律した能力を持った上で、産科医や小児科医のパートナーとして協働できる人材を育成します。また、現役助産師、看護師の能力アップはもちろん、人材不足の医療・福祉現場への非就労の助産師、看護師の復帰、新人助産師の離職予防も目的にしています。

奈良県や東京都における脳出血の妊婦のたらい回し死亡事例に象徴されるように、周産期医療を担うスタッフの不足は、その救急システム構築をも困難にしています。産科医の急増は現時点では望むべくもなく、産科医、助産師、看護師間の役割分担の再考とパートナーシップの強化が必要となっています。

産科医の負担を軽減する「助産師外来」や「院内助産所」を自律的に行なうためには、最新の産科知識と超音波検査や新生児の蘇生技術などの能力が必要になりますが、それを身につけているコメディカルスタッフは少ないのが現実です。また、不妊症、流産、DV 予防、妊娠、出産、子育て、虐待予防など女性の一生をサポートできる助産師・看護師の充実は、周産期医療のみを孤立させることなく、その他の分野との連携を深め、女性と子どもの一生を総合的にサポートすることが可能になります。

岡山大学大学院保健学研究科では、文部科学省の「再チャレンジ支援事業」に採択され、2007年度、2008年度に「周産期医療に関わる医療スタッフのためのステップアッププログラム」を開催してきました。しかし、好評により日本各地から定員の5倍を上回るご応募を頂き、多くの方には受講をお断りする事態となっております。また、1ヶ月間の集中講座のため、自主学習を行なう余裕もなかったかと思えます。

このため岡山大学大学院保健学研究科では、**2009年度は、1年間のプログラムとして、女性の妊娠子育てまでを支える助産師、看護師の育成をめざした「『妊娠中からの母子支援』の即戦力育成プログラム09」を開催**することとなりました。また、その社会的意義が理解されて岡山大学 COE にも採択されました。

1回の参加で1つのテーマについての知識や能力を獲得でき、子育て中の女性や勤務で忙しい方も受講しやすい「半日の集中講義形式」で行ないます。参加できない講義は、自宅で「e-ラーニング」で学習、「夜間や休日に、超音波シミュレーション装置や新生児蘇生モデルなどを開放」するサービスも予定しています。これから新人助産師となる現役助産学生も参加し、種々の年齢、経験を持った方々が人間関係を円滑にするコミュニケーション能力を養うことも目的にしており、近年、増加している新人助産師、看護師の離職防止にも役立つと考えています。

(プログラムの概要と受講生募集は、助産ネット <http://www.okayama-u.ac.jp/user/josan/index> や、西日本各地に発送中のパンフレットをご覧ください。)

<お問い合わせ>

岡山大学大学院保健学研究科・中塚幹也

(電話番号) 086-235-6895

(FAX番号) 086-235-6895